



芳戸

芳戸

観世流謡曲 元和卯月本

49-001

49 藤戸

国立国会図書館



次
去乃みふとの行もよわく
戸のりりあふし
はるなる三島感懐よそは極も
と度友の先陣はきたる恩
貴よ児鴻を給てん今日ハも
秋律すの浪静るつりわさく

元後



松吹凡も長閑よそ文書めき
時平毎も道あるうらつじ
後戸よもわく名はきわく
いづに泊るる湯前よあな
訥詔あしもる者、
作人、
中ノ浦の石を依り本殿の湯

入部よあつるう
あし者、
どそ後戸の月言よ
まふく
あつるものもきり
らり
海

福もさうさうとせよとて
うらみも今もも因果なり
小車乃やだきのくの罪科
報じともいふに我子あり
もあまらきよこもたし
のうらみもさうさうとせよ
とてせよとてせよとて
とてせよとてせよとて

あつて也 何と我子を恨
況や恨と、更なるを
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や
あつて我子を恨し況や

よよ入て浦乃男と一人ちつを
此海をこよそりてはまのち
あると尋一は者やうも
に瀬乃わあるあり月から
よ東よあつ月のまよ西
あると一島情大言隠れ
むら家乃こ日た子も

深かくは男と名二人書
そ新るえ乃函ちをく見
直と語一感懐心よあ
お下給いさち者よ
よもわんは語しと思は
よのちかもむらてはま
二刀ら一其ま海よ一つ

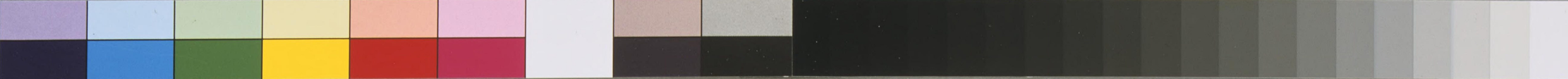
はらり〜きり〜
つえ〜らり〜頼つる〜
を〜らり〜われ〜
露を〜
あ〜
もの〜
き〜
き〜

か〜
あ〜
恨〜
は〜
も〜
ま〜

あつたしは附者も使はし依はし
きぬくり吊ひをあらし又しあ母
もも母はまのすもて有る
其よりし付の^上横くはまふ
法の起たてし浪はまふ
のよももあし書れつぬるはの
まふあつたのまのつしあ

はしつふまを志所
聲とありし^下まの^下教言
三東よりあつた^下わな
おしつふまを思ひ心くま
よちし思ひつらるるもてハ
あつたのまの^下科ま
あつたのまの^下罪あ





昔^{コト}もあ^ハ今^{イマ}もあ^ハし^テる^{コト}もあ^ハる^{コト}を^シて

し^テる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

ふ^シき^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

し^テる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ

あ^ハる^{コト}を^シる^{コト}は^ナし^テる^{コト}の^ノ極^キ



しめて千尋の海よりさうし
お節のちまほくばりて行
るこのほねさうさめ埋木の岩の
碇よふれかちてなすみか
うこの吾龍のまねとあつて恨を
ふらせし思ひし思ひさるるし
あはれ法にえ船よのちまほく
即ちその海よりさうし水洲さほ
らひさそ行福よまねの海より
さうしてはつちのまよひも
はるよさうさくはるよさう
さうして佛さうちのまよひ
おのまよひさうさうさう



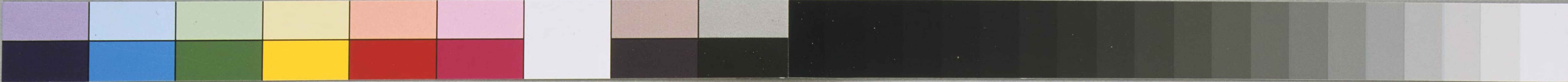
右百番之申者象宗直
傳石岡が左妻の音早向付
依波板起程心今清書
加奥少早

元和六年

觀世左近大夫

卯月日

首深五



観世流謡曲 元和卯月本

49-015

49 藤戸

国立国会図書館

